

1、日時 平成17年11月25日（金）第5校時（1：55～2：40）

2、单元名 「ともに生きる地球」

3、单元目標

- 日本が、貿易やスポーツ・文化の交流を通して外国と深いつながりのあることを理解し、他国と協調していくために、正しい国際理解が必要なことに気づく。
- 平和な国際社会実現のために努力している国連、NGO、青年海外協力隊などの働きを理解し、日本が国際社会に果たす役割について考える。

4、单元について

○单元についての考え

本单元では、日本と外国との関わり方を通して、世界の国々との協調の仕方やより正しい国際理解の仕方について考えていくことをねらいとしている。日本とのつながりの深い国として、アメリカ・中国・韓国・北朝鮮・オーストラリア・ベトナム・イタリア・ドイツ・イギリス・ネパールの10カ国を子ども達と話し合い、取り上げることとした。我が国との歴史的なつながり、貿易でのつながり、開発援助でのつながりなどの点から、これらの国々は、子ども達にとって、身近な国々であると位置づけられる。

総合的な学習の時間では国際理解教育の一環として、開発途上の国（グアテマラ・コスタリカ・モルジブ・ブータン・ブルガリア・ニジェール・パプアニューギニア・マラウイ・エジプト・ケニア）について調べてきた。開発途上の国の文化や習慣などを調べることを通し、これらの国々が、私たちからは想像もできないような環境の中で、独自の文化や習慣、伝統を今も持ち続けていることが少しずつ分かってきた。

ここでは、今までの学習経験を生かしながら、「日本とつながりのある国々」について調べ、日本が外国と深いつながりがあることを理解させていきたい。そして、各国の人々の生活の様子、歴史や文化の違いを理解することを通して、自国の文化や社会を改めて見つめ直すことや、他国の文化や習慣を尊重することの大切さに気づかせていきたい。また、世界各国は、独自の悩みや問題をかかえており、その解決には、国際理解に基づく積極的な国際交流や国際協調が不可欠であるということを考えさせたい。

そして、さらに学習を深めるために「貧困問題」を課題に設定した。世界規模で蔓延する貧困の現状、その原因、問題解決のための課題などを学習の柱とする。

*開発途上の国々には、明日の生命の危険にもさらされるような深刻な悩みや問題が多く存在すること。

*その原因は多岐に及んでいること、それは、全ての国々の将来の発展にとって深刻な問題であること。

＊解決のためには国際交流や平和的協調が不可欠であること。

＊世界の平和のために、ユネスコ・ユニセフ、NGO、青年海外協力隊などの組織が存在すること。

などを理解させたい。また、今後の世界の平和と発展は、どうあるべきかを意識しながら、我が国日本が果たすべき役割について考え、私たち一人ひとりはどうのような立場や方法で参加し協力し合えるのかを考えさせていきたい。そして、子ども達のこれからの生き方に、この單元での取り組みが生きるような学習となるようにしていきたい。

○貧困について

開発途上国と呼ばれる国々の大半が、かつて西欧諸国による植民地支配を受けた経験がある。14世紀以降、宗主国による工業化の抑制、徹底的な略奪政策の結果、それらの国々では、一次産品輸出に依存する単一経済しか発達しえなかった。そして、植民地支配からの独立後も、その単一経済を継承し、それが貧困問題の根源の一つとなっている。近年では、1日1ドル未満で暮らす人々の数は、1987年から1998年までの間に、サハラ以南のアフリカで2億1720万人から2億8900万人に増えている。民族対立を利用した東西冷戦の代理戦争や民族分断による紛争、先進国による自然資源の収奪的利用による環境破壊などの結果、「豊かな国はますます豊かに、貧しい国はますます貧しく」が、現在の世界の現実である。

また、世界人口60億人のうち約8億3000万人の人たちが栄養不足で、そのうち7億9100万人は開発途上国に暮らしている。栄養不足の人々が最も多く住んでいるのはアジア太平洋地域である。そして、世界には、国内総人口の35パーセント以上の人々が栄養不足である国が27か国あるが、そのうち、21か国がアフリカに集中しており、アフリカの国々は総人口に占める栄養不足人口の割合が高くなっている。

5、テーマとの関連

「ともに生きる社会をめざしていく子の育成」
～社会に参加していく社会科・生活科のあり方を通して～

(1) とともに生きる社会をめざす

21世紀は、日本国内の身近な生活圏で、外国の文化や人材と日常的にかかわりをもつ時代である。つまり異なる言語や文化、価値観をもつ人々が共存する社会が身近に迫っているといえる。そのような社会の変貌を考えると、世界の中の日本は、世界の国々と共存しているという認識をもつこと、さらに共存関係を上手に築き上げることが、平和で安心できる社会のために不可欠であることを理解する必要がある。そして、社会を構成する一人ひとりが、国という枠組みを越えて、互いに相手の立場や気持ちを尊重しながら、自分の考え(主張)や態度も理解してもらおうという心構えや信条を所持し行動することが大切になってくるといえる。

子ども達が身近なところから、海外の諸事情を調べ、発表し語り合いながら、国と国との利害を越えた協力の仕方について考え、「世界の中の私」という正しい見識と自らの行動

をもって生活できるようにすることをめざしていきたい。

(2) 社会に参加する

世界における貧困問題を学習の柱とする本単元では、日本とつながりの深い国ばかりでなく、開発途上国についても、わが国日本の現状と比較しながら、世界が抱える諸問題を浮き彫りにしていく。その中で、各国には独自に抱えている悩みや諸問題があり、その解決のためには、国ごとの自助努力だけでなく、世界的な協調によって解決が現実のものとなることや、その協調をするためには、今世界で、あるいは日本でどのような方法が考えられ採られているのかが分かってくる。そして、日本の中の私、世界の中の私という立場から「自分なら、今何ができそうか」を考え発表し合い、それを行動に移していけるように子どもと共に考えていきたい。

(3) コミュニケーションの視点から

①事象との出会い (1時間目)

「日本にとって身近な国々としてどのような国があるのか」「どのような交流の仕方をしているのか」に気づく。

②問題を追究する。(2・3・4時間目)

日本にとって身近な国々の中から、興味や関心をもった国の特徴を一人ひとりが調べまとめる。インターネットや書籍からばかりでなく、家族や身近な人々からも情報を得るようにする。

③追究した問題を深めていく (5・6・7・8時間目)

同じ国を調べた子ども同士でグループ化し、情報の共有化をさせる。そこでは、その国に生きる人々の様子、あるいは日本との共通点や相違点について意見を出し合いまとめていく。そして、各グループでまとめたことを話題とし、留学生と意見交換をする。さらに、学年全体でグループごとの話し合いの結果を発表し合い、全体での意見交換をする。

④事象との出会い (9時間目)

世界の貧困を象徴する写真や資料にふれ「貧困とは何か」について話し合う。

⑤問題を追究する。(10・11時間目)

世界の貧困の現実と状況、解決のための手立てなどを一人ひとりが調べ、「貧しい国や地域の子どもの達が望んでいること」や「今、私たちにできること」について、自分の考えをまとめる。

⑥追究した問題を深め、社会に参加していく (12・13・14・15時間目)

各自でまとめたことをグループの中で発表し話し合い、「今、私たちにできること」について討論しまとめる。そのまとめた考えについてクラス全体で意見交換をし、一人ひとりの考えをもう一度深め、まとめていく。

また、世界で起きている諸問題に気づき、「今、私たちにできること」についても同様に考えていく。

6. 本単元の評価規準

		A (よくできました)	B (できました)	C (支援のしかたについて)
社会 事象 について の関心・ 意欲・ 態度	評価	①外国の生活や文化に関心を深め、我が国や諸外国の様々な伝統を尊重しようとする。	①外国の生活や文化に関心を深め、我が国や諸外国の伝統を尊重しようとする。	①教科書や資料などで具体的な生活や文化を紹介し、我が国や諸外国の伝統に興味を持たせる。
	支援	①特に興味のある文化や伝統をさらに追求させていく。	①なるべく多くの文化や伝統を調べさせていく。	
	評価	②世界が抱える様々な問題について関心をもち、いろいろな方法で調べようとする。	②世界が抱える様々な問題について関心をもち、調べようとする。	②写真やビデオなどを見せ、どこに問題点があるのか気づかせる。
	支援	②たくさん調べたものの中で特に興味のあるものを深く追究させる。	②なるべく多くの地域、多くの問題点に気づかせていく。	
	評価	③国際交流の様子や国際協力について自分なりの課題をもって調べようとする。	③国際交流の様子や国際協力について調べようとする。	③簡単な調べ方の方法を示唆したり友だちの方法を参考にさせたりする。
	支援	③現在行っている活動についてより広く調べさせ、具体的な課題をはっきりさせていくよう支援する。	③現在行っている活動についてより広く調べさせていく。	
社会的な 思考・ 判断	評価	④世界平和のために今の自分でもできること、大人になってできることを考えようとする。	④世界平和のために自分でもできることを考えようとする。	④クラスの話し合いの中で友だちの意見をよく聞き、どの活動ならできそうか考えさせる。
	支援	④現在行っている世界の活動の中から自分が将来できそうなことを考え、その活動について見通しをもたせる。	④現在行っている活動の中から自分が将来できそうなことを考え、その理由も考えさせる。	
	評価	①世界が抱える様々な問題を解決するために特に今はどんなことが必要なのか考える。	①世界が抱える様々な問題を解決するためにどんなことが必要か考える。	①分かりやすい資料を提示し考えさせる。
	支援	①新聞やテレビなどの世界のニュースから考えさせる。	①教科書や資料などを参考に考えさせる。	
	評価	②ユニセフや青年海外協力隊などが果たす役割と今後の方向性について考える。	②ユニセフや青年海外協力隊などが果たす役割について考える。	②青年海外協力隊の方を招いて、具体的に考えられるように支援する。
	支援	②過去の資料からこれから先どうなっていくか自分なりに考えさせる。	②それぞれの役割について自分なりの考えがもてるようにさせる。	

		A (よくできました)	B (できました)	C (支援のしかたについて)
観察・資料活用 の技能・表現	評価	①世界の戦争や紛争、環境破壊、国際協力や交流について新聞やテレビのニュース、写真、本、地図、パソコンなどを活用してくわしく調べることができる。	①世界の戦争や紛争、環境破壊、国際協力や交流について新聞やテレビのニュース、写真、本、地図、パソコンなどを活用して調べることができる。	①調べる手だてを例示し、どれか一つの資料に注目させ、分かりやすくとらえられるようにする。
	支援	①それぞれの問題点についてわかりやすくまとめていけるように支援する。	①調べたことを種類別にまとめ、整理することができるようにさせる。	
	評価	②調べたことを自分なりの方法でくわしく、わかりやすくまとめ、表現する。	②調べたことを自分なりの方法でまとめ、表現する。	②まとめ方について簡単な方法を示唆していく。
	支援	②それぞれの問題点についてわかりやすく説明できるように支援する。	②わかったことを見る人・聞く人にわかりやすいようにまとめさせる。	
社会事象 についての知識・理解	評価	①調べた国それぞれの文化や生活習慣の違いや日本とのつながりが分かる。	①調べた国それぞれの文化や生活習慣の違いが分かる。	①留学生から聞き取ったことをもとに、具体的な内容を説明していく。
	支援	①留学生から日本とのつながりを聞き取るよう支援する。	①留学生から聞き取り、その国の様子を考えさせる。	
	評価	②平和な国際社会実現のために青年海外協力隊、ユニセフ、ユネスコの果たしている役割をくわしく知る。	②平和な国際社会実現のために青年海外協力隊、ユニセフ、ユネスコの果たしている役割を知る。	②青年海外協力隊の方から実際の活動の様子を聞き取ることができるように支援する。
	支援	②青年海外協力隊の方の実際の活動の様子を聞き取り、自分の問題として詳しく考えさせる。	②青年海外協力隊の方の実際の活動の様子を聞き取り考えさせる。	
	評価	③わが国の国際交流や国際協力についてくわしくわかる。	③わが国の国際交流や国際協力についてわかる。	③青年海外協力隊の方から実際の活動の様子を聞き取ることができるように支援する。
	支援	③青年海外協力隊の方の実際の活動の様子を聞き取り、自分の問題として詳しく考えさせる。	③青年海外協力隊の方の実際の活動の様子を聞き取り考えさせる。	

7. 指導計画（15時間）

	学 習 活 動 と 内 容	活動への支援	評価	コミュニケーション
問 題 を つ か む 過 程	ともに生きる世界をめざそう 日本とつながりの深い国について調べよう ①日本とつながりの深い国には、どんな国があるのか気づく。 貿易…アメリカ・オーストラリア・ドイツ・イタリア 歴史…韓国・中国・北朝鮮・イギリス 援助…ベトナム・ネパール	自分たちの生活とどのように関わっているのか気付かせる。	関①	(出会い) ☆気付き おしゃべり メモ 学習問題 の成立
問 題 を い 追 く 究 過 し 程	②③④各国の特徴を一人ひとり調べる。 ○人々の生活の様子や日本との共通点・相違点に気づく。 ⑤⑥国ごとに集まり、意見交換をする中で、その国の特徴をまとめる。 ・ハンバーガーやホットドックは、アメリカ生まれなんだ。 ・中国には 56 もの民族があり驚いた。 ・韓国の国旗の四隅にある線は、天・地・火・水を意味している。 ・ネパールでは、1 日 2 食しか食べていないんだよ。手を使って上手に食べるんだね。 ・オーストラリアでは、カンガルーやエミュー、ワニなどを食べているよ。 ○日本とどのようなつながりがあるかをまとめる。	自分の選んだ国について、日本とのつながりや各国が抱えている問題について関心を持って取り組ませる。 日本とのつながりをまとめ、留学生に報告できるように支援する。	技① 技②	(調べ活動) インターネットや資料を参考にして各国の特徴をまとめていく。 発表・交流
追 究 し た 問 題 を 深 め る 過 程	⑦⑧それぞれの国についての交流会を行い、日本は世界の国々とつながっていることに気付かせる。 ○調べたことを留学生に発表する。 ○調べられなかったことや、それぞれの国の生活について、詳しく聞く。 ○日本での生活の様子も聞き取り、留学生の思いを知る。 ○日本とのつながり確かめ、世界の国々とどのように接するか考える。	留学生からそれぞれの国の様子を直接聞き取れるように配慮する。 ネパールなどのように世界には貧しい国があり、援助が必要なことが分かる。	関① 技② 知①	友だち同士や留学生の方々との会話などから各国の特徴をまとめていく。

問題を つかむ 過程	世界の貧困問題について考えよう ⑨「貧困とは何か」について話し合う。	テレビや新聞などの情報をもとに「貧困とは何か」について共通認識をもたせる。	関② 思①	学習問題 の成立
問題 をい 追 究 過 し 程	⑩⑪貧しい国や地域の子ども達はどのような生活を送っているのか調べる。	貧しい国や地域の子ども達の生活を調べることを通して、彼らの気持ちも考えさせていく。	関③ 技①	(調べ活動)
追 究 し た 問 題 を 深 め て い き 社 会 に 参 加 し て い く 過 程	⑫⑬貧しい国や地域の子ども達が望んでいることを話し合い、今の私たちができることについて考える。 ・何か食べたい。 ・裸足なので靴がほしい。 ・勉強がしたい。 ・家に住みたい。 ・ユニセフに募金しよう。 ・家にある文房具を送ってあげよう。 ・履けなくなった運動靴を送ろう。 ・食べ物を粗末にするのはやめよう。 ⑭⑮世界で起きている諸問題に気づき、今の私たちにできることを考える。 環境破壊・紛争・人種差別・難民など	各自が調べたことや考えたことを発表し合う中で、「今、私たちにできること」について、グループごとに考えを深めさせる。 青年海外協力隊OBの方の話を聞き、参考にしながら自分の考えをまとめさせる。 「貧困」以外の問題についても考えさせていきたい。 国際機関のはたらきを知らせる。	思① 技② 関④ 思② 知③ 関④ 知②	発 表 協同的な話し合いから自分たちにできることを考えていく。 社会参加

本時目標

貧しい国や地域の子ども達に、今の私たちができることについて考える。

本時（12・13時間目）

学習活動と内容	活動への支援	評価
今、私たちにできることを考えよう ○貧困について調べたことや考えたことを発表する。 ・世界には、5才になるまでに3人に1人が死んでしまう国もある。 ・家の仕事を手伝わないといけないうちに、学校に通えない子どももたくさんいる。 ・ごみを拾って生活している子どももいる。 ○貧しい国や地域の子ども達が、何を望んでいるのか話し合う。 ・何か食べたい。 ・裸足なので靴がほしい。 ・勉強がしたい。 ・家に住みたい。 ○グループごとに（貧困を解決するために）自分たちができそうなことを考える。 ・ユニセフに募金をしたらどうだろう。 ・家にある文房具を集めて送ってあげるのはどうだろう。 ・貧しい地域に住んでいた人の話を聞きたい。	今まで調べた事を自分の考えも含め発表させる。 世界の貧困の状況をひと目でとらえられるハンガーマップを提示し、調べてきたことを照らし合せながら発表させる。 カンボジアに出かけたことのある方の話を聞き、参考にさせる。 一人ひとりの考えを充実させるためにグループになって考えさせる。	2組 思① 技②
○グループごとに出的意見を、クラス全体で発表する。	いろいろな意見を発表させる。	1組
○実際に貧しい地域での子ども達の生活はどのようなものなのか、青年海外協力隊OBの方の話を聞く。 ・ザンビアのエリート中学校でも鉛筆は1人1本で、教科書も使いまわし。 ・都市部には、ストリートチルドレンがたくさんいる。 ○青年海外協力隊の活動の様子で聞きたいことなどを尋ねる。 ・活動していて1番困ったことは何ですか。 ・1番うれしかったことは何ですか。 ・子ども達の様子を教えてください。 ○他の友だちの意見や、青年海外協力隊OBの方のアドバイスを参考にして、自分たちにできることをまとめる。 ・現地の人の立場になり助けることが大切だ。	青年海外協力隊の方に、貧しい地域で暮らす子ども達の様子を具体的に話してもらい、子ども達から出的意見に対してアドバイスしてもらう。 時間に余裕があれば、今できることだけでなく、将来できることも考えさせる。	関④ 思② 知③